

Market Flash

発表日: 2019年10月10日(木)

やはり底打ち感がある②

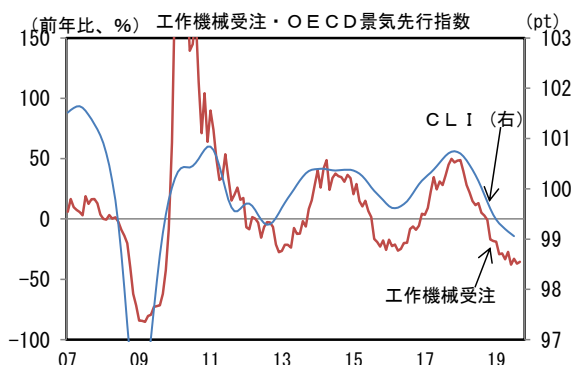
～OECD 景気先行指数 工作機械受注～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL: 03-5221-4523)

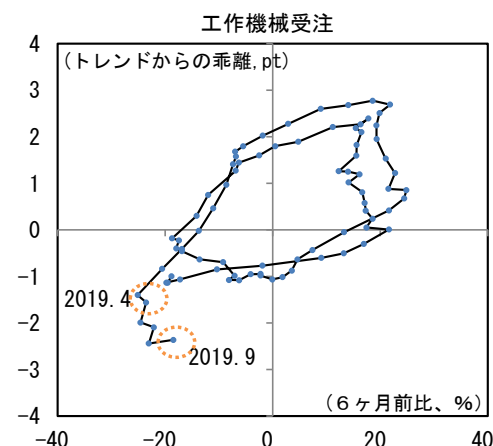
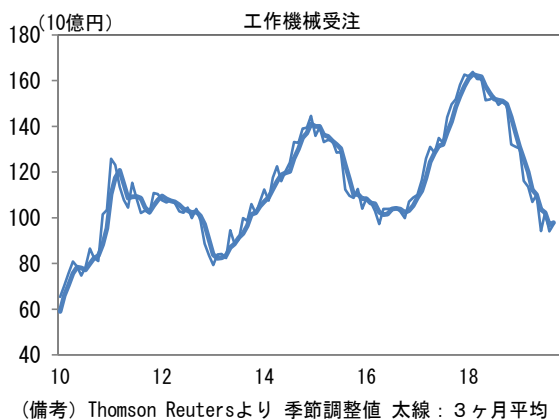
- ・日経平均は底堅い企業業績を背景に、先行き12ヶ月は23000近傍で推移しよう。
- ・USD/JPYは米利下げ観測が支配的となる下、先行き12ヶ月は105程度で推移しよう。
- ・日銀は現在のYCCを2020年末まで維持するだろう。
- ・FEDは予防的利下げを実施後、更なる利下げを実施するだろう。

< #工作機械受注 #OECD景気先行指数 #双方とも底打ち感 >

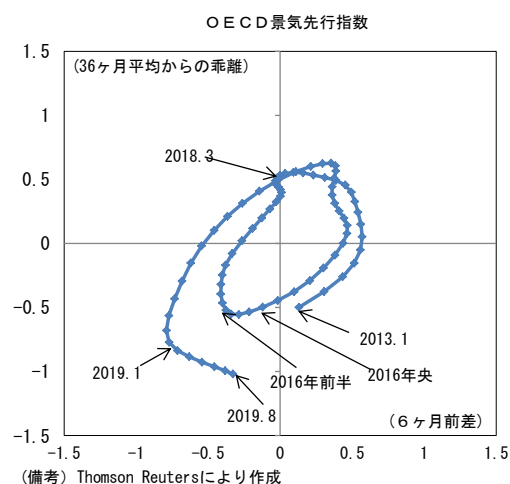
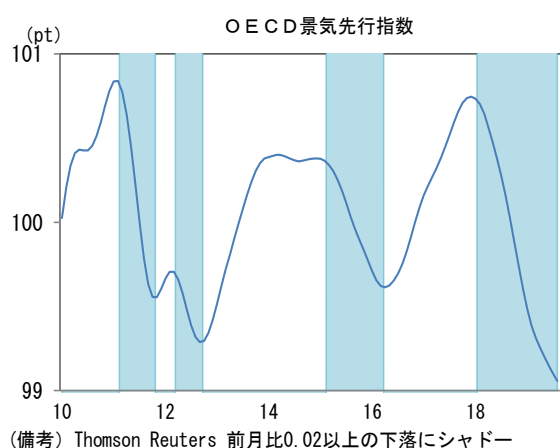
- ・景気の先行指標として有用なOECD景気先行指数(CLI)と日本の工作機械受注は依然として下向きのカーブを描いている。製造業のサイクルが在庫調整局面にあることに加え、米中貿易戦争がもたらす先行き不透明感がグローバルな設備投資需要の減速に繋がっている模様。OECD景気先行指数の水準、工作機械受注額の前年比伸び率は双方とも2017年末頃をピークに下落を続けている。



- ・ただし、ここへきて双方とも悪化モメンタムは和らぎつつあり、最悪期脱出の気配が感じられる。まず工作機械受注額は直近9月時点で前年比▲35.5%と大幅な減少基調にあるものの、6月の▲37.9%をボトムに緩慢ながらも縮小傾向にある。季節調整済み前月比(筆者作成)では、全体が+3.3%、内需が+13.1%、外需が▲3.1%。3ヶ月平均では全体が+1.0%(19ヶ月ぶりに増加)、国内が+7.2%、外需が▲3.1%と、内需を中心に復調の兆しが窺える。
- ・こうした明るい兆候は工作機械受注額の循環図を描くことで、より可視的に把握できる。縦軸をトレンド(36ヶ月移動平均)からの乖離、横軸を6ヶ月前比とすると、現在の位置取りは「悪化局面(左下)」にあるものの、右方向へと向かう動きが認められており、減少モメンタムが和らぎつつあることが見て取れる。



- ・OECD景気先行指数も同様。指数の水準は19ヶ月連続でマイナスを記録しているものの、下落モメンタムは和らいでおり、循環図の位置取りは着実に右領域へ近づいている。現在のペースで延伸すれば、6ヶ月程度で右領域に突入し、やがて水準も反転上昇が期待される。その頃になると、金融市場のムードが楽観に傾斜している可能性があるだろう。



【株式市場・アジアオセアニア経済指標】

- ・日本株は米国株高に追随して小高く始まった後、米中協議に関するヘッドラインに振り回される展開。日経平均は21500円近傍で推移している（11：00）。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は上昇。米中貿易協議の閣僚級会合を控えるなか、中国が部分的な合意に前向きな姿勢を示したとの報道を手掛かりに買い優勢の展開。WT I 原油は52.593^{ドル}（+0.04^{ドル}）。
- ・前日のG10通貨は全体的に小動きとなるなかでJPYが売り優勢。JPYは0.4%下落し、G10で最弱に。USD/JPYは107半ばへと上昇した。EUR/USDは1.09後半へと水準を切り上げた。
- ・前日の米10年金利は1.584%（+5.5bp）で引け。リスクオフムードが和らぐなか、カーブ全体で金利上昇。欧州債市場（10年）はドイツ（▲0.548%、+4.6bp）、フランス、イタリア、スペインが金利上昇。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。